

# みずほ教育福祉財団のご支援に心から感謝します！

令和元年5月28日（火）、公益財団法人みずほ教育福祉財団から、離島部の学校と都市部の学校との交流を支援する「へき地教育交流学習研究助成金」が、対馬市立乙宮小学校に贈呈されました。本県で本助成金を受けた学校は、今回の乙宮小学校で32校目となりました。

## 交流学习研究助成金趣旨説明



みずほ教育福祉財団は、初等中等教育及び社会福祉の発展に寄与することを目的といたしまして、昭和47年に設立されました。設立以来、山間地・離島等のへき地教育、及び障害のある児童・生徒に対する特別支援教育さらに高齢者福祉への助成を中心として社会貢献に努めてまいりました。

今回の助成は全国のへき地小規模小中学校の児童生徒の皆さんが、環境の異なる都市部の大規模校との相互交流を行い、お互い理解を深め、コミュニケーション能力、社会性の向上を図る目的で支援させていただくということです。今年度は全国から推薦を受けた中から選考審査を行い、全国の小中学校12校が助成の対象となっております。今回の助成により、対馬市立乙宮小学校と佐世保市立大野小学校との相互交流を通じて、双方の子どもたちに実り多き成果が得られますことを期待いたしております。

## 交流学习研究助成金贈呈



左：みずほ銀行長崎支店長 和田 謙太郎 様  
右：対馬市立乙宮小学校 原 正伸 校長

## 池松教育長あいさつ（抜粋）

貴財団におかれましては、昭和47年の「はあと記念財団」設立の当時から、長きにわたり本県のへき地教育振興のために多大な御支援を賜り、深く感謝申し上げます。本県は594の島を有し、公立小・中学校の約4分の1が「しま地区」にあります。これらの地域において、特色ある教育活動を推進し、心豊かでたくましい子どもを育てていくことは、本県教育の重要な課題のひとつであります。

そのような中、貴財団の助成により、離島と都市部の子どもの交流を促進する事業として「ふるさとふれあい学習」を継続的に実施できることは大変意義あるものと認識しております。貴財団から助成を受けた学校数は、本年度で32校にも上るとのことですが、毎年、この学習に参加した子どもたちからは、「体験活動や多くの人々との交流は楽しかった」「普段できない活動ができて良かった」等の感想が寄せられています。

今年度は、対馬市立乙宮小学校5・6年生が、佐世保市立大野小学校を訪問し、合同での授業や交歓会などの活動を行います。2泊3日の交流を通して、人と人のふれあいやふるさとに対する思いなどを深めてくれることと期待しています。この度の助成金が有効に活用され、参加する全ての子どもたちにとって実り多い交流となることを心から願っております。

最後になりますが、みずほ教育福祉財団様におかれましては、今後とも本県のへき地教育の振興に、温かい御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、貴財団の今後ますますの御発展を祈念いたしまして、お礼のごあいさつといたします。



## 原校長お礼の言葉



本校・対馬市立乙宮小学校は、自然と人に恵まれ、家庭と地域が一体となった教育を推進しておりますが、今年度は全校児童が23名と、少子高齢化の波が目に見える形で迫っております。子どもたちは、豊かな交流経験に乏しいという実情があります。そのような中、本助成金を使わせていただき、豊かな経験や多くの友達との交流ができることは、とても幸せなことであります。この2泊3日の経験が一生の思い出となるように準備し、相手の大野小学校の子どもたちにも対馬の良さが伝わるように、今後の交流活動の継続にもつなげてまいりたいと思います。本日はありがとうございました。

みずほ教育福祉財団からの助成金により、これまでも離島などの子どもたち並びに交流する都市部の子どもたちに貴重な経験を提供することができております。

今年度も、本助成金が有効活用され、交流する双方の学校の子どもの豊かな成長につながることを期待いたします。

令和元年5月28日  
長崎県教育委員会教育長 池松 誠二